

重症心身障害者 福祉で東北大会

きょうまで福島

第十一回重症心身障害児(者)を守る東北ブロック・福島大会は八、九の両日、福島市飯坂町の摺上亭大島で開催されている。「この子どもたちの



意見を交わす参加者

目線」をテーマに、初日は障害者の福祉制度に対する疑問、日ごろの思いなどについて意見を交換した。

全国重症心身障害児(者)を守る会東北ブロック、同会県支部の主催、県と県教委、福島民報社などの後援。東北六県から会員約二百五十人が参加した。開会式では、田村輝雄東北ブロック長、大塚新一県支部長がいささつし、八木卓造県保健福祉部自立支援領域総括参事らが祝辞を述べた。県支部員の小関英子さんから、重症心身障害者を家族に持つ思いや意見を発表した。

障害者の福祉考える

重症心身障害児・者を守る大会

第十一回重症心身障害児が「障害者自立支援法一年(者)を守る東北ブロックの経過と展望」と題して基・福島大会は八日、福島市で開幕した。写真。二日間の日程で障害者福祉の課題などを考える。



東北六県に住む「全国重症心身障害児(者)を守る会」の会員約二百五十人が参加した。開会式では、守る会の田村輝雄東北ブロック長が「重症心身障害者施策は変革期を迎えているが、弱い立場の人が社会の底辺に取り残されることのないよう、引き続き活動を進めていこう」とあいさつ。大塚新一県支部長の歓迎の言葉に続いて、八木卓造県保健福祉部総括参事、富田哲夫市健康福祉部長、古川浩三郎福島病院院長が祝辞を述べた。同会顧問の山崎国治さん

ンを行い、参加者が普段感じていた疑問や不満、障害者福祉制度の在り方などについて意見を交わした。九日は各県支部の活動報告と大会の総括を行うほか、閉会式で大会スローガンを確認する。